

農業競争力強化農地整備事業
(農地整備事業【経営体育成型】)

土地改良事業計画概要書

(区 画 整 理)
(第 2 回 変 更)

県		名	岩		手
地	区	名	矢		次
所	在	地	矢	巾	町
事	業	主	岩	手	県

土 地 改 良 事 業 計 画 概 要 書

— 目 次 —

変更前後

第1章	目的	1
第2章	地域の所在及び現況	1
第1節	地域の所在	1
第2節	現況	2
第3節	水利状況	4
第4節	営農の状況	4
第5節	地域環境の概況	5
第3章	基本計画	6
第1節	計画の要旨	6
第4章	工事又は管理の要領	7
第1節	工事の施工計画	7
第2節	管理の要領	7
第3節	予定工期	7
第5章	換地計画の要領	7
第1節	換地計画樹立の必要性	7
第2節	換地計画樹立の基本方針	7
第3節	土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積	8
第4節	非農用地の換地方法	9
第6章	費用の概要	10
第7章	効用	11
第8章	他の事業との関係	11
第9章	計画概要図	12

上段：変更後
下段：変更前

第1章 目 的

〃

本地区は、岩手県の中央に位置する矢巾町上矢次、下矢次、北矢幅地内で、新興住宅地の北側に展開する水田地帯である。地区の東側には東北新幹線が走り、地区の北端を一級河川芋沢川、南端を一級河川岩崎川が流れている。また、地区内中央部を東西に1級町道安庭線、南北に2級町道矢次線、下海老沼線が走っている。

本計画地区周辺の西側は、県営ほ場整備事業「煙山第三地区」、北側は県営ほ場整備事業「煙山第一地区」、東側は県営ほ場整備事業「下矢次地区」で基盤整備が完了している。

本地区は、完了地区に囲まれた、未整備区域であり、約10a（20m×50m）程度の小区画となっている。

営農状況は、稲作を中心に野菜を組み合わせた複合経営で農家個々による完結型の営農が中心である。

本地区の整備状況は、昭和28年～31年にかけて非補助土地改良事業等で一部は整備されてはいるものの、10a程度と小区画である。

また、地区内の小用排水路のほとんどが土水路となっており、維持管理に多大な労力を費やしているほか、農道の幅員もほとんどが2m程度と狭小で大型機械の通行が困難であることから、効率的な営農の展開が不可能な状態となっている。

これらを解決するため、本事業により高生産性ほ場を整備し、営農や維持管理等の省力化を図ると共に、担い手への農地集積を推進し、農業経営の安定化を図るものである。

地 積

（単位：ha）

現況地目 市町村名	水 田	普通畑	樹園地	計	道水路等	その他	合 計
矢 巾 町	〃 34.2	〃 0.8	〃 —	〃 35.0	〃 3.9	〃 0.1	〃 39.0

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地域の所在

〃

岩手県紫波郡矢巾町上矢次、下矢次、及び北矢幅 地内

第2節 現 況

上段：変更後
下段：変更前

第1項 地形及び地質、土壌

本地区は、東北本線矢幅駅から北西に1.0kmの新興住宅地に接しており、岩手県の中央に位置する水田地帯である。

地形は、西から東の方向へ向けて、1/124程度の傾斜をなしており、標高は114m～122m程度である。

地質的には北上川右岸の沖積層地帯であり、母材は非固結火成岩、非固結堆積岩で、堆積様式は風積、水積である。

土壌は、グライ土壌強粘土マンガン型（E41）、黄褐色土壌強粘土型（I81）である。

第2項 気 象

(1) 一般気象 (岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 令和6年3月版)

観測所名	紫波気象観測所	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	H25～R4年	〃 月 ～ 〃 月 5 月 ～ 8 月	〃 月 ～ 〃 月 9 月 ～ 4 月		
平均気温 (℃)		〃 20.6 ℃	〃 6.2 ℃	〃 11.0 ℃	
降水量	平均 (mm)	〃 614.5 mm	〃 679.9 mm	〃 1,294.4 mm	
	基準年 (mm)	〃 — mm	〃 — mm	〃 — mm	
降水日数	平均 (日)	〃 45 日	〃 82 日	〃 128 日	
	基準年 (日)	〃 — 日	〃 — 日	〃 — 日	
根雪期間		〃 月 〃 日 ～ 〃 月 〃 日 — 月 — 日 ～ — 月 — 日	〃 日間		
無霜期間		〃 月 〃 日 ～ 〃 月 〃 日 5 月 3 日 ～ 10 月 18 日	〃 日間 169 日間		
最多風向		〃 S	最大風速 (風向)	〃 20.1 m/s (〃 W)	最多風向発生時期 〃 — 最大風速発生年月日 〃 2013/3/10

※ 最大風速のデータは気象庁のホームページによる。

(2) 特殊気象

上段：変更後
下段：変更前

〃
(岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 令和6年3月版)

観測所名	1 位			2 位			3 位			4 位			5 位			備考
〃 紫波気象観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
〃 M34年～R4年																
最大日雨量 (mm)	〃 222	〃 S13. 8. 15	〃 1/390	〃 220	〃 H19. 9. 17	〃 1/366	〃 211	〃 H25. 8. 9	〃 1/275	〃 210	〃 T9. 8. 9	〃 1/266	〃 135	〃 S15. 9. 4	〃 1/20	
最大時間雨量 (mm)	〃 69. 5	〃 H27. 6. 16	〃 1/80	〃 64. 5	〃 H25. 8. 9	〃 1/56	〃 52	〃 H13. 8. 3	〃 1/22	〃 52	〃 S35. 8. 10	〃 1/22	〃 51	〃 H6. 9. 30	〃 1/20	
最大4時間雨量 (mm)	〃 196	〃 H25. 8. 9	〃 —	〃 164. 5	〃 H25. 8. 9	〃 —	〃 160	〃 H25. 8. 9	〃 —	〃 111	〃 H25. 8. 9	〃 1/110	〃 98	〃 H27. 6. 16	〃 1/48	
最大3日連続雨量 (mm)	〃 359	〃 T9. 8. 10	〃 1/899	〃 340	〃 T9. 8. 9	〃 1/605	〃 265	〃 T9. 8. 11	〃 1/114	〃 238	〃 S13. 8. 15	〃 1/60	〃 231	〃 M43. 9. 3	〃 1/51	
最大連続旱天日数 (日)	〃 55	〃 S18. 6. 19	〃 —	〃 40	〃 S21. 7. 16	〃 1/613	〃 39	〃 S3. 7. 18	〃 1/397	〃 37	〃 H11. 7. 18	〃 1/175	〃 36	〃 S53. 6. 29	〃 1/120	

上段：変更後
下段：変更前

第3節 水利状況

第1項 用水状況

本地区の用水は御所ダムを水源とし、一級河川雫石川より鹿妻穴堰頭首工にて取水後、国営かんがい排水事業盛岡南部地区で整備された幹線用水路と一級河川岩崎川の専治分水、西田分水からそれぞれの小用水路に導水されている。

地区内の小用水路は、維持管理事業等で所々舗装されているが、ほとんどが用排兼用の土水路となっている。そのため、土壌浸透による用水の損失や、法面の崩落等による通水障害も生じており、水管理及び維持管理等に多大な労力と経費を費やしている。

第2項 排水状況

本地区の排水は、地区の中央部を境として、南側は1級河川岩崎川へ、北側は1級河川芋沢川へ排水される。

芋沢川は下流において岩崎川に合流し、排水本線である北上川に達している。

地区内の小排水路は、用排兼用の土水路となっており、水路底が浅く、表面水のみが排水可能な状況であるため、水田の汎用化が行えない状況となっている。また、法面の崩落等による通水障害も生じており、維持管理に多大な労力と経費を費やしている。

第4節 営農の状況 専業別農家数及び平均経営耕作面積

2020農林業センサス

項目			専業	第一種 兼業	第二種 兼業	計	一戸当たり 平均経営 耕地面積	田	畑	樹園地	その他	計	地域指定等	
戸数	専業	兼業	専業	第一種 兼業	第二種 兼業	計		田	畑	樹園地	その他	計	地域指定等	
専業別	矢巾町	戸数	- 戸	- 戸	- 戸	- 戸		5.11 ha	0.38 ha	0.09 ha	0.00 ha	5.58 ha	農振	S45.3
		割合	- %	- %	- %	- %		91.6 %	6.8 %	2.1 %	0.0 %	100 %	広域営農団地	S54
	本地区	戸数	4 戸	0 戸	61 戸	65 戸		0.53 ha	0.01 ha	- ha	- ha	0.54 ha	野菜指定産地	S45.10
		割合	6.2 %	0.0 %	93.8 %	100 %		98.1 %	1.9 %	0.0 %	0.0 %	100 %	酪農、肉用牛振興計画	S42
													果樹濃密団地計画	S56

上段：変更後
下段：変更前

経営農用地広狭別農家数												2020農林業センサス		
区 分	農 家 総戸数	経 営 農 用 地 広 狭 別 農 家 数										耕地の分散状況		一戸当たり
		経営耕 地なし	～ 0.5ha	0.5ha ～ 1.0ha	1.0ha ～ 1.5ha	1.5ha ～ 2.0ha	2.0ha ～ 3.0ha	3.0ha ～ 5.0ha	5.0ha ～ 10.0ha	10.0ha 以上	自給的 農家	一戸当たり 団地数	団地当たり 面 積	平均耕地面積
〃 矢巾町	〃 679	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	〃 -	〃 302	〃 -	〃 a	〃 a 558

第5節 地域環境の概況

本地区は、田園環境マスタープランにおいて「環境配慮区域」とされており、地域内には、希少野生動植物の生育・生息が確認されている。

第3章 基本計画

上段：変更後
下段：変更前

第1節 計画の要旨

本地区は、昭和20年代～30年代に耕地整備されているものの、区画規模は10a程度と小区画であるうえ、農道の幅員もほとんどが2m程度と狭小で、大型機械の通行が困難であることから、効率的な営農の展開が不可能な状態となっている。また、地区内の小用排水路のほとんどが土水路となっており、維持管理に多大な労力を費やしている。このため本事業では、標準区画1haのほ場を整備する。また、農道は支線道路L=4.1kmを敷砂利舗装に、用水路はL=5.9kmをパイプラインにて整備する。排水路はL=5.3kmを鉄筋コンクリート二次製品にて整備するとともに、暗渠排水A=26.0haを併せ行い乾田化を図る。

これらの整備により、営農及び維持管理等の省力化を図ると共に、担い手への農地集積を一体的に推進して、農業経営の安定化を図るものである。

環境との調和への配慮として、地区内で生息が確認された保全対象種については、有識者委員の指導・助言を得ながら、工事施工前に地区に隣接した生息環境が類似している箇所を利用し移植・移動する。また、景観を阻害しないように現地形に沿った区画設計とし、農村景観への影響を最小限にする。

事業計画一覧表

種 別		事 業 量	摘 要
区 画 整 理	整 地 工	30.8 ha	表土扱い A=30.8 ha
	道 路 工	4,138 m	砂利道 B=5.0(4.0)m、B=4.0(3.0)m、B=3.0(2.0)m※全幅（有効幅員）
	用水路工	5,851 m	管水路（塩ビ管）100～400mm
	排水路工	5,276 m	鉄筋コンクリート排水フリューム水路 300×300～1,600×900
暗渠排水工		26.0 ha	吸水渠H=0.6m φ50～60m/m、集水渠 H=0.6m φ50～65m/m

上段：変更後
下段：変更前

第4章 工事又は管理の要領

第1節 工事の施工計画

1. 工事は、全て県営事業により行い、請負工事とする。

2. 施工は、農業土木工事共通仕様書による他、特記仕様書による。

第2節 管理の要領

施工後の諸施設（農業用道路及び農業用排水施設）の管理は、矢巾町が行う。

第3節 予定工期

令和2年～令和10年

第5章 換地計画の要領

第1節 換地計画樹立の必要性

本事業により実施する区画整理がより生産性の高い農業の実現に資するよう、担い手への集積、集約化を見据えた換地計画を樹立する必要がある。

第2節 換地計画樹立の基本方針

第1項 従前地の地積の基準

換地交付の基準とする従前土地の地積は、土地改良事業計画の決定の日の登記簿地積とする。但し、上記の日から3ヶ月以内に土地家屋調査士の測量した実測図に、隣接所有者の承諾書を添付して申出があった場合は、その申出地積とする。

上段：変更後
下段：変更前

第2項 農用地集団化の方針

区分 換地区	地帯別グループ 別団地の設定	個 人 別 換 地 の 方 法		
		位 置 の 選 択 方 法	一戸当り目標団地数	区画畦畔の取り扱い
矢 次	〃 営農グループ別 集団化	〃 予め特殊地の選定を行なった後、各戸の従前の土地が最も密集した位置を基本とするが、育成すべき担い手の経営農用地を中心として集積が図れるように配慮する。	〃 1～2団地	〃 固定畦畔

第3項 清算の方法

〃
比例地積清算方式

第3節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

(単位：ha)

用 途	公 用 公 共 用 地				一般国有地	合 計
	国有地	県有地	市町村有地	計		
公衆用道路			〃 2.0	〃 2.0		〃 2.0
用悪水路			〃 1.9	〃 1.9		〃 1.9
計			〃 3.9	〃 3.9		〃 3.9

上段：変更後

下段：変更前

第4節 非農用地の換地方法

(単位：㎡)

換地区名	区 分	用 途	非農用地区域の位置の概略	面 積 (㎡)	換地の手法	換地取得 予 定 者	そ の 他
〃 矢次		道路・歩道用地 道路用地 道路・歩道用地	岩手県紫波郡矢巾町北矢幅地内 岩手県紫波郡矢巾町上矢次及び下矢次地内 岩手県紫波郡矢巾町上矢次、下矢次、及び北矢幅地内	10,777 15,775 26,552	創設非農用地換地 創設非農用地換地 創設非農用地換地	矢巾町 国 矢巾町	
計				26,552			

上段：変更後
下段：変更前

第6章 費用の概要

単位：千円

項 目 事 業 名	総 事 業 費		負 担 内 訳				備 考
	費 目	金 額	国費（50%）	県費（30%）	地 元 負 担（20%）		
					市町村（10%）	農家（10%）	
農業競争力強化農地整備事業 （農地整備事業【経営体育成型】） （区画整理）	事 業 費	〃 950,000	〃 475,000	〃 285,000	〃 95,000	〃 95,000	
	費 目	金 額	国費（0%）	県費（100%）	地 元 負 担（0%）		
					市町村（0%）	農家（0%）	
	工 事 雑 費						
	事 務 費						
	計	〃 950,000	〃 475,000	〃 285,000	〃 95,000	〃 95,000	

上段：変更後
下段：変更前

第7章 効 用

区 分 項 目	全 体（千円）		区画整理（千円）		備 考
	便 益 額	所 得 額	便 益 額	所 得 額	
食料の安定供給の確保に関する効果 （作物生産効果）	〃 9,599	〃 3,221	〃 9,599	〃 3,221	
食料の安定供給の確保に関する効果 （営農経費節減効果）	〃 61,484	〃 65,813	〃 61,484	〃 65,813	
食料の安定供給の確保に関する効果 （維持管理費節減効果）	〃 △ 649	〃 874	〃 △ 649	〃 874	
農業の持続的発展に関する効果 （耕作放棄防止効果）	〃 3	〃 0	〃 3	〃 0	
農村の振興に関する効果 （非農用地等創設効果）	〃 399	〃 0	〃 399	〃 0	
その他効果 （国産農産物安定供給効果）	〃 1,568	〃 0	〃 1,568	〃 0	
合 計	〃 72,404	〃 69,908	〃 72,404	〃 69,908	〃 総費用総便益比＝ 1.38

第8章 他の事業との関連

区分	事 業 名	事業主体	受益面積	工 期	事業費（百万円）	前年度までの 進 捗 率	事業との関連
そ の 他	〃 矢巾町都市計画道路整備事業	〃 矢巾町	〃 —	〃 —	〃 —	〃 —	〃 道路整備
	〃 町道下海老沼線歩道整備事業	〃 矢巾町	〃 —	〃 —	〃 —	〃 —	〃 歩道整備
	国都市計画道路整備事業	国	—	—	—	—	道路整備

第9章 計画概要図

〃
次 項

